東陽病院だより

健康へのメッセージ

急性胃炎とは

東陽病院院長
伊藤　文憲

突然のお腹の痛みの代表は急性胃炎です。何らかの原因により胃に炎症を起こすと腹痛とともに吐き気や嘔吐を伴ないます。嘔吐がひどくなると血を吐いて救急車のお世話になることもあります。食欲が低下して、外来を受診する病気です。

口から食物や水分をとると、食道から胃・十二指腸・小腸・大腸を通過します。この間に消化吸収が行われます。食物が胃の中にはいると胃液に接触します。胃液には消化酵素のほかに胃の中を酸性にするための胃酸や胃の粘膜を守るための粘液が混合しています。胃は食道との境に噴門、十二指腸への出口に幽門という狭い部分があり、括約筋によりコントロールされています。2つの括約筋により出入り口を塞がれた胃は収縮と拡張を行い、食物と消化酵素を混ぜ合わせます。半消化の状態になり、十二指腸に移動して、改めて膵臓の酵素により消化が行われます。この食物の移動がスムーズに行かないと胃の中にいつまでも内容物が残ります。胃もたれと呼ばれる症状です。

胃の壁では、消化とともに自己を守ることも懸命に行われています。この戦いに敗れると粘膜が傷つき、急性の胃炎を起こします。粘膜の損傷が持続し、深くなると潰瘍が形成されます。

胃の粘膜面では常時戦いが行われています。攻撃するのは胃酸です。ストレスなどによっても胃酸の分泌の増加がみられます。外部からの攻撃もあります。お酒の過飲、薬の影響、アニサキスなどの寄生虫、最近ではピロリ菌と呼ばれる細菌も関係があるとされています。防御側としては多くの粘液を作って胃粘膜を保護しています。このバランスの乱れが胃炎や胃潰瘍の原因と考えられています。

急性胃炎を起こすと腹痛・吐き気・嘔吐が起こります。通常では胃には自己修復能力がありますので症状は1日で改善することもあります。症状が続く時には市販の胃薬が必要です。症状が強い場合には外来を受診することとなります。強い腹痛により食事がとれない場合には点滴などが必要となります。出血性胃炎では血を吐くこともあり、たかが急性胃炎と軽視することは危険です。

症状から急性胃炎は容易に診断できます。前回の急性膵炎より急性胃炎は圧倒的に多い疾患です。強い腹痛や、嘔吐物が赤い場合には緊急の内視鏡検査が行われることもあります。内視鏡で胃の中をみると赤く浮腫状になった胃粘膜がみられ、出血の後の黒い点が散在することもあります。

経過はほとんどの例で早期に改善します。お薬も胃潰瘍のように長期に飲む必要はありません。再発の予防が重要です。暴飲・暴食を避け、3食をきちんと摂取する規則正しい生活が大切です。

◆救急当番日
2月8日(日)・3月1日(日)
午前8時30分～午後5時15分

◆問い合わせ
東陽病院　☎㉞1335
URL:www4.ocn.ne.jp/~toyohp/

40歳以上75歳未満の被保険者・家族のみなさまへ
受けましょう　特定健診
※東陽病院でも受診できます

特定健診とは……

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）は、心筋梗塞や脳梗塞といった生命にかかわるさまざまな病気を引き起こします。内蔵脂肪型肥満の危険性を知り、生活習慣を変えて生活習慣病の進行、悪化を食い止めることが特定健診の目的です。

年１回の特定健診を必ず受けましょう。

☆社会保険に加入している方の被扶養者・家族の方は、特定健診を受けましょう。

受診の際は、保険者から配布された「特定健康診査受診券」と「被保険者証」を窓口に提示してください。

◎社会保険の本人は、勤務先で健診を受けてください。

◎国民健康保険の方は、今までどおり町の住民健診を受けてください。

◎基本の検査費用は7,500円ですが、窓口負担額は各医療保険で異なりますので受診券を確認してください。

◆問い合わせ　東陽病院　☎84－1335

◎休診のおしらせ

２月から毎週木曜日の外来の外科診療は都合により休診させていただきます。
ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。